

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書			2025/9/20	
団体名	NPO法人ぐんま里山学校	活動タイトル	新事業！ぐんま里山学校居場所・子育て地域開放事業	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■活動風景	
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	当法人の実現したいビジョンは、「多くの子ども達に社会参加や学びの場を提供し、全ての子ども達が社会で生き抜く力を身に着けることができる社会をつくる」ことである。 具体的には、一人ひとりの子ども達がその子に適した教育を受けることができ、個性を伸ばし、将来自信をもって社会の中で生き抜いていく力を身に付けることができる社会である。公立の学校だけに頼らず、地域の中で地域の子ども達を育てていけるような社会を目指す。		居場所・子育て支援地域開放事業（農業体験） 	
●団体の社会的役割(ミッション)	当法人の社会的役割は、「全ての子ども達が社会で生き抜く力を身に付けることができる社会」をつくることである。具体的には、以下のような取り組みを推進する。 ①個性豊かな子ども達を受け入れ、地域の中で育てていくモデルとなるような教育活動を行っていく。 ②子ども達一人ひとりを理解し、受け入れ、育てることができる人材を育成する。			
●団体の活動基盤	●望ましい人的資源：ボランティアスタッフ、専門的知識と技術を有したスタッフ、施設管理や田畑の管理ができるスタッフ、広報、SNS、寄付金の募集等を積極に行えるスタッフ ●望ましい物的資源：屋外走ったり運動したりすることができるスペース。生き物と触れ合える環境。室内で学習したり、音楽活動、eスポーツやプログラミングにも取り組めるスペース。 ●望ましい活動資金：安定した収入（会費・寄付・自主事業）の確保。受け入れ人数を増やしたり、自主事業の拡大や、地域貢献活動に幅広く取り組んでいくのに必要な人件費の確保。 ●望ましい情報：様々な団体や企業と繋がりをもちながら、日々新しいことに取り組んでいく。ここで学んだスタッフ達が他の場でもそのスキルを活かし、繋がり続けられる体制作りを行う。			
■活動報告		■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
助成事業では、当団体としては初めて「無料」での事業を実施した。その為か、普段はリピーターが多い中、初めて足を運んでくださった方も多く、今まで参加の機会がなかった家庭へ参加の機会が作れたことを実感した。全6回、「居場所・子育て支援地域貢献事業」を実施したが、どの回も、申込み開始と共に多くの申込みがあり、広報活動をする間もなく、定員になってしまう状況であった。途中で、より居場所を必要としている家庭、個別相談を希望している家庭を優先的に受付できるよう工夫したが、それでも改善は難しく、より必要としている人へ機会を届けることの難しさを痛感した。事業の参加保護者から聞き取りをする中で、今回の事業がとてもありがたいという話や、家族以外の人とお子さんが楽しそうに交流する姿に喜ばれていることが分かった。保護者は、家庭以外の居場所や体験の場が必要と感じている一方で、参加費を支払う程の余裕がなかったり、無料なら参加したいという声も多く聞かれた。スタッフ研修にも、より力を入れて取り組むことができた。本事業の目的を共有しながら、課題解決を意識してスタッフ一丸となって事業に取り組めたことも良い機会となった。SNS等での広報活動についても、関わるスタッフを増やし、以前より頻度よく投稿が可能となった。		本事業を通して、今まで参加の機会がなかった家庭へ、機会を届けることができた。また、継続的に定期的に実施することで、リピーターが増え、参加者同士の繋がりができたり、参加者がスタッフとして関わってくださったりするようになった。参加費をかけずに参加できる居場所の重要性も改めて知ることができた。本事業をきっかけに、当団体について知り、ボランティアを申し出てくれた方や、フリースクールについての問合せをしてくださった方もいた。 スタッフについては、研修の機会を持つことができ、活動の目的や課題解決に対する意識を高める良いきっかけとなった。不登校者数の38%が、どこからも支援を受けていないという調査結果を踏まえ、その子達に社会と関わる機会を作るための方法を話し合うこともでき、新たな取り組みも考えることができた。 今後必要なことは、この事業が終了後も、何らかの形で取り組みを継続していくことだと考えている。無料や、できるだけ安い参加費で居場所や体験の機会が作れるよう、取り組んでいきたい。		
■事業を通じて得られたノウハウ		■望ましい社会状況を達成するための課題		
まずは本事業を通して、計画の作成や中間報告会、研修等に参加させていただき、社会全体に目を向け、課題解決のために自分達ができること、また、ニーズを調査するという姿勢をもって参加者と関わることなど、目的をもって事業に取り組む一連の流れを経験することができた。この経験を活かし、日々の活動の中でも常に課題意識や目的意識をもちながら、その課題について分析を行い、より質の高い活動ができるように努力していきたい。 参加費を無料で実施した「居場所・子育て支援地域開放事業」では、想像以上の反響があり、参加費がかかることが普段いかに「壁」となっているかを感じることができた。予定していた定員よりも多くの参加者を受け入れた中で、大人数でも安全に質の高い体験プログラムが提供できる方法も模索することができた。		今回実施した「居場所・子育て支援地域開放事業」のような活動を、継続していく。その為に、継続的なスタッフ養成、受入れ人数増加の為に環境整備を行っていきたい。また、当団体だけでは、受入れ人数に限りがあるので、今後モデルとなるような活動を行い、子どもや保護者にとってより良い居場所が増えるよう、働きかけていきたい。 また、当団体の取り組む課題について、多くの人に知っていただき、支援者を増やしていく為に、広報活動に力を入れること。効率よく、必要な情報を発信し続けられるように努力を続けていく。		
■活動成果のアピールポイント（自由記入）				
この1年間の活動を通じて	個性豊かな子ども達を受入れ、地域の中で育てていくモデルとなるような教育活動のはじめの一步	を達成しました。		
■受益者の具体的な変化（自由記入）				
本事業をきっかけに、家庭の外へ出ることにチャレンジし、1年ぶりに社会との関わりをもつことができた児童は、今ではリピーターとなり、新たな参加者のサポートができるようになった。				